

# 70 MA米の輸入状況

- MA米の主な輸入先国は、米国、タイ、豪州、中国など。
- 輸入方式別の数量は、近年、一般輸入米が66万玄米トン、SBS米が10万実トン。
- 国別の輸入数量は、国内における加工用の実需者のニーズ、輸出国の生産量及び作付品種の状況、輸出余力等を勘案しながら行う入札の結果として決定される。

## ○ MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

(単位:万玄米トン)

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
米国	19	23	29	31	34	36	36	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15	19	19
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11	10	8
オーストラリア	9	9	9	11	12	12	11	10	9	2	2
その他	1	1	1	3	2	2	1	4	5	10	12
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76	77	77
(うち一般輸入)	42	49	54	55	59	63	66	71	65	66	66
(うちSBS輸入)※	1	2	6	12	12	12	10	5	10	9	10

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
米国	36	36	43	36	36	36	36	36	36	36
タイ	18	24	26	33	35	24	28	35	33	34
中国	8	8	7	7	2	6	5	0	6	6
オーストラリア	5	-	-	-	4	7	6	4	1	0
その他	10	1	1	1	1	4	1	2	1	1
合計	77	70	77	77	77	77	77	77	77	77
(うち一般輸入)	65	59	66	66	73	66	66	70	75	73
(うちSBS輸入)※	10	10	10	10	4	10	10	6	1	3

※SBS輸入数量の単位は万実トン。  
 注1:各年度の輸入契約数量の推移。  
 注2:万実トンと万玄米トンのため合計は一致しない場合がある。  
 注3:ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。  
 (参考)MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1~0.2千トン程度

# 71 平成27年度のSBS米の輸入入札状況

(単位:実トン)

入札回数	全体			丸米			碎米		
	輸入予定数量	応札数量	落札数量	輸入予定数量	応札数量	落札数量	輸入予定数量	応札数量	落札数量
第1回 (27年9月16日)	30,000	4,230	628	27,000	2,002	0	3,000	2,228	628
第2回 (27年10月21日)	30,000	4,202	1,458	27,000	2,550	614	3,000	1,652	844
第3回 (27年11月18日)	30,000	6,894	3,836	27,000	3,936	2,578	3,000	2,958	1,258
第4回 (27年12月9日)	30,000	6,453	4,985	27,000	3,785	2,917	3,000	2,668	2,068
第5回 (28年1月13日)	30,000	5,190	4,304	27,000	2,770	1,984	3,000	2,420	2,320
第6回 (28年1月29日)	30,000	3,229	2,753	27,000	1,747	1,271	3,000	1,482	1,482
第7回 (28年2月16日)	30,000	4,639	4,353	27,000	2,539	2,253	3,000	2,100	2,100
第8回 (28年3月2日)	77,683	7,038	6,998	74,683	1,286	1,246	3,000	5,752	5,752
合計			29,315			12,863			16,452

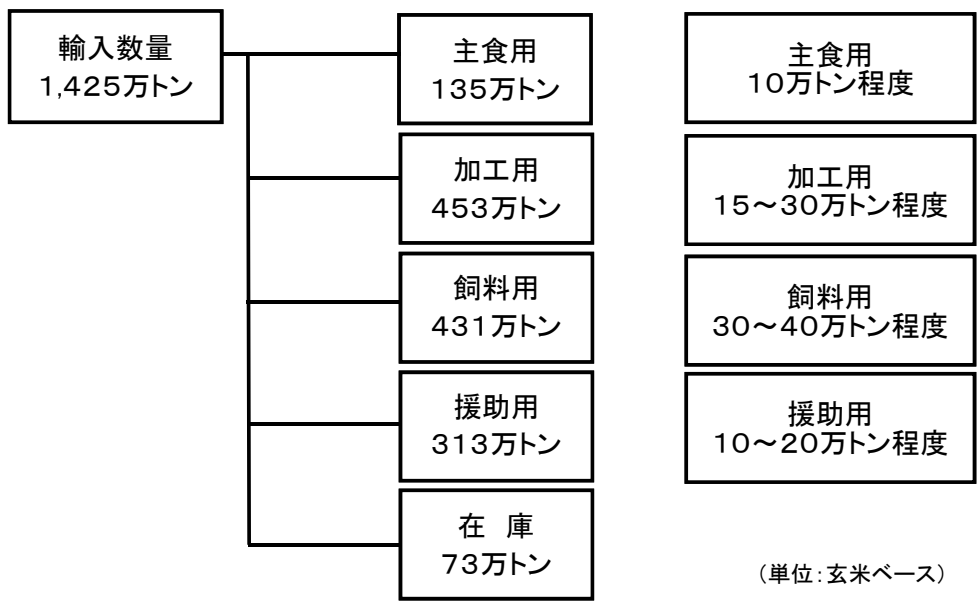
# 72 MA米の販売状況

- 国家貿易によって輸入したMA米は、価格等の面で国産米では十分に対応し難い用途(主として加工食品の原料用)を中心に販売
- MA米に対する加工用等の需要は、その輸入数量ほど多くはないため、飼料用にも販売する他、海外への食糧援助に活用。

## ○ MA米の販売状況(平成27年10月末現在)

平成7年4月～平成27年10月末の合計

単年度の平均的販売数量



注1:「輸入数量」は、平成27年10月末時点の政府買入実績。  
 注2:「主食用」は、主に外食産業などの業務用。  
 (※なお、MA米輸入開始以降、その主食用販売数量の合計を大きく上回る量の国産米を、援助用(136万トン)、飼料用等(150万トン)に活用。)  
 注3:「加工用」は、みそ、焼酎、米菓等の加工食品の原料用。  
 注4:「在庫」は、平成27年10月末時点の数量。  
 注5:在庫73万トンには、飼料用備蓄35万トンが含まれる。  
 注6:上記販売用途の他に、食用不適品として処理した4万トン、バイオエタノール用へ販売した16万トンが含まれる。

## ○ MA米の販売状況(年度別)

(単位:万玄米トン)

販売先	8 RY	9 RY	10 RY	11 RY	12 RY	13 RY	14 RY	15 RY	16 RY	17 RY	18 RY	19 RY	20 RY	21 RY	22 RY	23 RY	24 RY	25 RY	26 RY	27 RY	合計
主食用	—	3	4	10	10	9	10	4	6	8	10	11	10	8	8	1	8	10	4	1	135
加工用	12	28	19	28	24	27	24	21	31	25	25	36	37	21	21	15	15	19	15	10	453
飼料用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	58	66	25	42	38	45	33	44	65	431
援助用	—	12	34	23	26	21	23	20	22	17	13	8	12	20	14	9	19	10	4	6	313
在庫	31	39	42	44	56	75	95	127	148	175	189	152	97	95	88	96	78	80	84	73	—

注1: RY(米穀年度)とは前年11月から当年10月までの1年間である  
 (例えば27RYであれば、平成26年11月から平成27年10月まで)。  
 注2:この他に、食用不適品として処理した4万トン、バイオエタノール用に販売した16万トンがある。  
 注3:ラウンドの関係で、内訳と合計が一致しない場合がある。

## ○ MA米の食糧援助への活用にあたっての留意点

- ・ 途上国や国際機関からの要請を踏まえる必要
- ・ 財政負担が必要
- ・ 国際ルールとの整合性に留意:
  - ① 援助先へのコメ輸出国は、援助先への輸出減を懸念  
 → 援助するときは、国際機関等に連絡・協議する必要
  - ② MA米の輸出国は、日本市場向けに輸出  
 → 輸入品と国産品を同じように扱う必要

# 73 MA米の運用に伴う財政負担

□ MA米の運用については、飼料や援助に仕向けられることに伴う売買差損、在庫に伴う保管料などが発生。

## ○ MA米の売買差損・保管料等

### MA米の飼料用販売

7万円 / トンの輸入米  
3万円 / トンで飼料用に販売 } 差し引き4万円/トンの財政負担

50万トン飼料用として売却すれば  
200億円

### MA米の援助への活用

7万円 / トンの輸入米に  
2万円 / トンの輸送費を負担して援助 } 合わせて9万円/トンの財政負担

50万トン援助すれば  
450億円

### MA米の在庫

1年間で、1万円 / トンの保管料

100万トンを1年間在庫すれば  
100億円

注: 平成24~26年度のデータ等を基に試算。

## ○ MA米の損益全体

(単位: 億円)

	7年度 (1995)	8年度 (1996)	9年度 (1997)	10年度 (1998)	11年度 (1999)	12年度 (2000)	13年度 (2001)	14年度 (2002)	15年度 (2003)	16年度 (2004)
売買損益①	▲43	114	148	150	215	204	225	116	13	▲202
売上原価	▲97	▲216	▲230	▲373	▲347	▲298	▲247	▲221	▲492	▲632
買入額	▲314	▲365	▲400	▲439	▲346	▲321	▲289	▲349	▲467	▲362
売却額	54	330	378	523	562	502	472	337	505	430
管理経費②	▲26	▲116	▲152	▲152	▲153	▲173	▲186	▲185	▲172	▲182
保管料	▲6	▲39	▲60	▲59	▲66	▲75	▲87	▲103	▲124	▲147
損益合計 (①+②)	▲69	▲2	▲4	▲2	62	31	39	▲69	▲159	▲384

注4

	17年度 (2005)	18年度 (2006)	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)	25年度 (2013)	26年度 (2014)
売買損益①	▲22	16	49	▲25	▲135	▲228	▲224	36	▲28	▲295
売上原価	▲439	▲546	▲597	▲595	▲779	▲611	▲649	▲501	▲485	▲629
買入額	▲523	▲493	▲577	▲646	▲708	▲506	▲630	▲518	▲498	▲629
売却額	417	562	646	570	644	383	425	537	457	334
管理経費②	▲185	▲240	▲265	▲179	▲203	▲152	▲138	▲121	▲122	▲117
保管料	▲170	▲184	▲133	▲92	▲113	▲92	▲92	▲82	▲86	▲89
損益合計 (①+②)	▲207	▲224	▲216	▲204	▲338	▲380	▲362	▲85	▲150	▲412

注1: 「売上原価」は、「期首在庫棚卸高+買入額-期末在庫棚卸高」により算出。

注2: 「売買損益」は、売却額から売上原価を差し引いたもの。

注3: 「管理経費」は、保管料、運搬費等。

注4: 平成11~13年度の損益は、利益が生じたことから、旧食糧管理特別会計法第6条に基づき国内米管理勘定へ備蓄損失補てん財源として繰り入れた。

注5: MA米の援助輸出に係るODA負担分は含まない。

- MA米の運用に際しては、WTO協定による様々なルールに留意する必要。(WTOに提訴されてルール違反が認定されれば、現在の運用を維持できなくなる。)
- 一方、輸出国からは、高水準の枠外税率に加え、日本の消費者へのアクセスが十分でない等の意見。

○ 主なWTO協定のルール

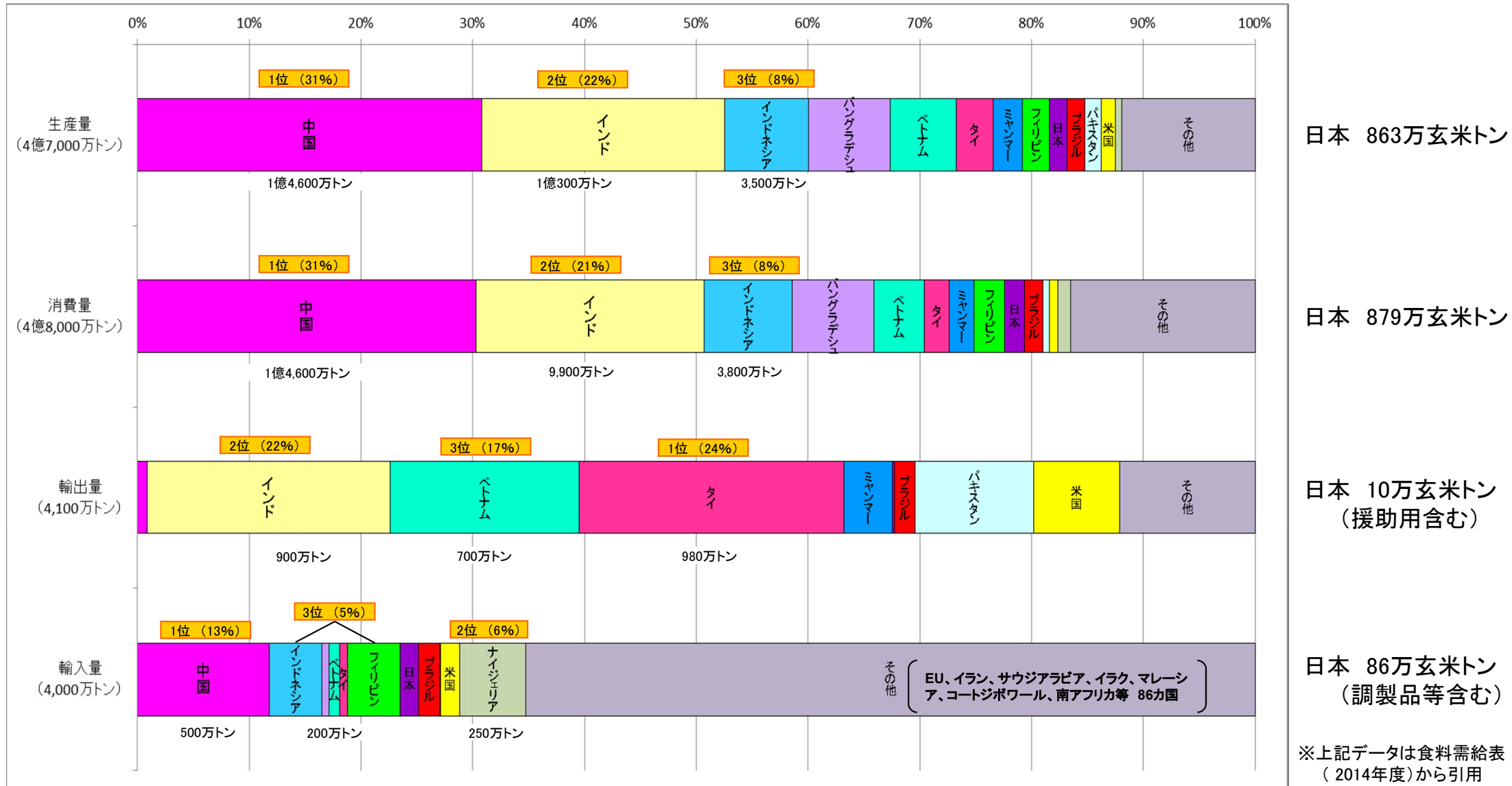
- ・ **ガット第2条(譲許表)**  
加盟国は貿易相手国に対し、譲許表(WTO加盟国の関税の上限(譲許税率)等を記載した表)に定める待遇より不利でない待遇を与えなければならない。
- ・ **ガット第3条(内国民待遇)**  
輸入品に対し、同種の国産品に与える待遇より不利でない待遇を与えなければならない(いわゆる「内外無差別の原則」)。
- ・ **ガット第17条(国家貿易企業)**  
国家貿易企業は商業的考慮のみに従って売買を行わなければならない。
- ・ **農業協定第4条(市場アクセス)**  
原則として通常の関税以外のいかなる措置(国家貿易企業を通じて維持される非関税措置を含む)も用いてはならない。

○ 我が国のコメ輸入制度に対する輸出国側の意見

米国 (「外国貿易障壁報告」 (2016年4月公表)等)	中国 (「国別貿易投資環境報告」 (2014年4月公表))
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MA米の輸入 一般輸入米は政府在庫となった上で、もっぱら加工用・飼料用・援助用に使用。日本の消費者への十分なアクセスを阻んでいる。</li> <li>○ 米国政府の対応方針 日本によるWTO上のコメ輸入に関する約束の観点から日本の輸入を注視。</li> <li>○ 枠外関税 輸入禁止的な高い水準の税率により、枠外輸入はほぼ商業的に不可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MA米の輸入 品種等についての制約を受けるため、中国産米の対日輸出が困難。</li> <li>○ 中国政府の対応方針 日本がMA制度の透明性を向上させることを期待。</li> <li>○ 枠外関税 法外な枠外関税は輸入米の競争力を大幅に弱めており、枠外輸入数量を極めて少なくしている。</li> </ul>

# (参考1) 世界の米需給の現状(主要生産国、輸出国等)

- 世界の米生産量は4.7億精米トン(うち日本は2%)。第1位は中国(1.5億トン)で全体の31%を占める。
- 世界の米の輸出量は、4千万精米トン。このうち、第1位はタイで全体の24%を占め、インドが22%が続いている。



# (参考2) 米輸出国の動向

- 米の生産に占める貿易の割合(貿易率)は、他の農産物に比べて低く、このため、国際価格は変動しやすい。
- 我が国は、輸出大国であるタイや、米国、豪州、中国等からミニマムアクセス米として毎年77万トンを入力。

## 中国

- 世界最大のコメ生産国。一方、輸入量も増加しており、2012/13年より世界第一位のコメ輸入国となった。
- 日本向けには、主にSBS方式で輸出していたが、安全性に対する懸念等を背景に、2013年以降、SBSによる日本向け輸出は大幅に減少。

## タイ

- 長年、世界第1位のコメ輸出国。近年はインドに抜かれていたが、2015/16年度は再び第1位となった。
- 日本向けにも長粒種を輸出。

## ベトナム

- 世界第3位のコメ輸出国。価格はタイより安い。
- 日本向けの輸出実績あり。

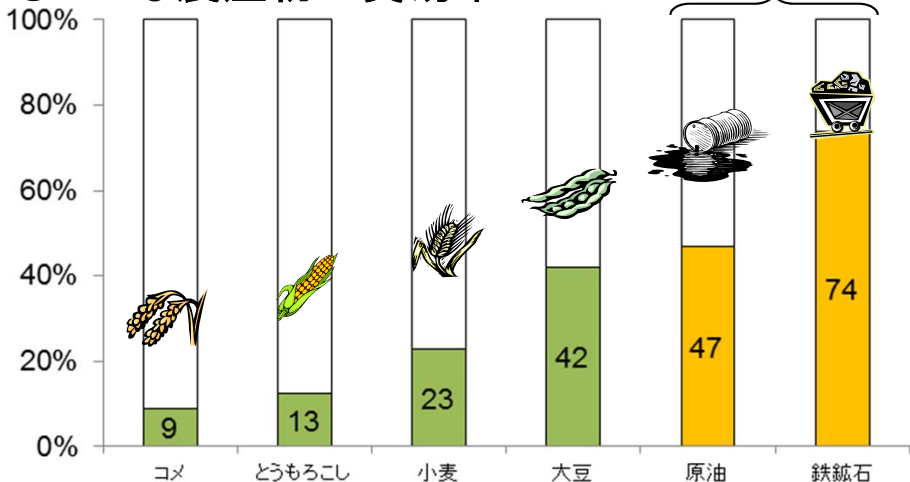
## 米国

- コメは、南部の一部とカリフォルニアで生産。
- 大規模経営による商業的農業。国内消費が少なく、輸出に関心(生産の約半分を輸出)。
- 日本向けはカリフォルニアの短・中粒種。
- カリフォルニアでは、2013年の冬より続く干ばつにより生産量が減少していたが、近年回復。

## 豪州

- 主に中粒種を生産し、日本にも輸出。
- 生産量は、大干ばつ(2006年)で大きく減少したが、近年回復。

## ○ 主な農産物の貿易率



コメ、とうもろこし、小麦、大豆：PSD(米国農務省)(2015/16)、  
 原油：「KEY WORLD ENERGY STATISTICS 2015(IEA)」(2013年の数値)  
 鉄鉱石：「Steel Statistical Yearbook 2015(World Steel Association)」(2014年の数値)  
 (注) 貿易率=世界の輸出货量/世界の生産量×100

## ○ コメの国際価格(タイ米輸出価格)の推移



出典：タイ国貿易取引委員会  
 注：うるち精米長粒種2等相当の月初価格